

## 《座間キャンプ菅沼さんのお話と視察・沖縄県内の基地との比較》

前田小 豊里 友達

### 1 基地の概要

神奈川県座間市と相模原市南区にまたがる米陸軍の基地。在日米陸軍司令部、米陸軍第1軍団（前方）司令部などが置かれ、在日米陸軍の中枢部としての役割をもつ。国連軍地位協定により、国連軍も施設・区域を使用することができる。司令部のみの兵站基地であり、実戦部隊は配備されていないが、有事の際にアメリカ本土の舞台を受け入れるための施設が整備されている。キャンプ内に、580mの滑走路（通称・キャスナー飛行場）を有している。



普天間基地・・・沖縄県本島中部の宜野湾市中心部に位置する。2700mの滑走路を有し、嘉手納基地と並んで沖縄におけるアメリカ軍の拠点となっている。また、国連軍地位協定により、国連軍も施設・区域を使用することができる。



嘉手納基地・・・沖縄県中部郡嘉手納町・沖縄市・北谷町に広がるアメリカ空軍基地。3700mの滑走路2本を有し、約100機の軍用機が常駐する極東最大の空軍基地、在日空軍最大の基地である。



### 2 面積

キャンプ座間・・・約 2.346 km<sup>2</sup>（相模原市の0.5％ 座間市の3.5％）

普天間基地・・・約 4.8 km<sup>2</sup>（宜野湾市の2.5％）

嘉手納基地・・・約 19.855 km<sup>2</sup>（嘉手納町の8.2％）

### 3 基地被害

#### 騒音被害

キャンプ座間でも、県内の米軍基地同様騒音被害があった。早朝から深夜までヘリが飛び、住宅地上空でタッチ&ゴー訓練が繰り返し行われているようだ。騒音測定でも、昨年だけで70 dB（昼間の主要幹線道路周辺：目安）以上の騒音が、6466回も計測されている。市として、米軍ヘリの住宅密集地上空での飛行禁止を求めているが、未だ解決には至っていない。



県内の騒音被害も未だ解決とは至っていない。岩国基地からFA18戦闘攻撃機が普天間基地に飛来した際は、一日に100 dB以上の騒音が5回も記録された。最大で115 dBの騒音となり、人間の聴力の限界120 dBに迫る数値となった。

#### 危険物の保管

相模原総合補給廠では、沖縄を除く日本国内の米陸軍施設の危険物を保管・管理している。PCB・硝酸アンモニウム・重クロム酸カリウムなどの加熱や衝撃で爆発の危険性や、毒性の強いものが含まれている。2000年には、PCB搬出問題、1986年には、空母ミッドウェー改修工事にともなって出された大量のアスベストを相模総合補給廠北側道路フェンス脇に、ゴミ袋に入れたまま放置された。



最近では、県内米軍基地から有機フッ素化合物PFOSが基地の外に流れ出る事件があり、有害物質を含む泡がこども園の庭を飛んでいたり、キャンプハンセンから70メートルの地下水で目安の8.2倍の有害物質が検出されたりしており、住民の不安が未だに続いている。

## その他の被害

キャンプ座間の敷地には市民も利用できるゴルフ場がある。住宅地の中に基地があるため、ゴルフボールが飛び出して窓ガラスや住宅の屋根が破損する事件が起きていた。市が抗議し、防球ネットを高くすることで通報は一時なくなったが、住宅地に隣接するゴルフ場であるため、抜本的な解決策とはなっていない。

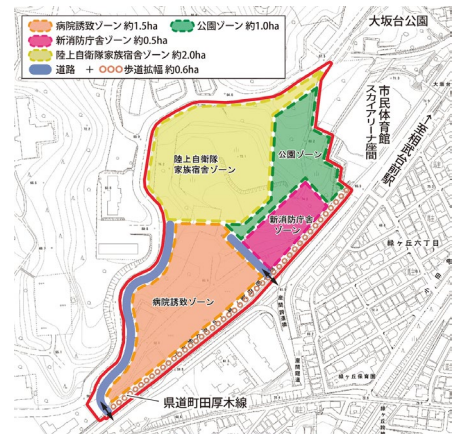
また、米軍の飲酒運転や暴行事件は以前に比べると減少傾向にあるらしい。沖縄では毎週のように報道されている問題なので、米軍の意識改革や罰則強化など具体的事例があれば参考にして、県でも取り組んでもらいたい。



## 4 基地返還

キャンプ座間から駅へと向かう車内から外を見ると、新しい病院や消防署が並んでいた。菅沼さんによると、返還後に建てられた施設だそう。2016年に返還された土地に改修予定のあった病院や消防署、市民体育館が建てられた。近くにはパークゴルフ場や公園も建設されており、市民の健康増進や災害時等に有効活用できるようにしている。

県内でも返還後の土地への商業施設建設や道路拡張等で、県民の生活に還元できている面もあるが、普天間飛行場の全面返還の代替施設として辺野古への移設が問題視されている。一日も早い返還が求められるが、これ以上基地負担が増えることのないような合意形成を図ってもらいたい。



## 5 おわりに

今回平和の旅 in 神奈川に参加し、沖縄との相違点があるのかを考えた。基地の規模は違っても、やはりどこの県でも基地負担があることは間違いない。反対運動や平和学習等を通して、基地のない平和な暮らしを望んでいる思いは変わらないことがわかったので、沖縄事だけでなく、日本事として基地問題について考えていきたい。

